

翻訳にあたってのヒント

その 78

There is ... 構文について

“There is/are ...” の形の文章は、英語を学んだ人ならば誰でも知っているものである。一見、単純で簡単な文章にしか思えないこの形は、英語を深く勉強していくと一筋縄ではいかないものであることが分かってくる。例えば、「There is + 主語 + 過去分詞（もしくは現在分詞）」の形の構文になると、知っている人は少なく、その意味が分からず混乱を来す人が多いようである。そこで今回は、「～がある・いる・存在する」を意味するこの文章を中心に述べることにする。

まず、日本人が日本語的な発想で英語を理解しようとしたり書こうとしたりすること、そして「There is + 主語 + 過去分詞（もしくは現在分詞）」の構文が倒置文であるということを知らないという文法的な知識不足から、混乱を来してしまうようである。よって、和訳と英訳の場合に、この形は日本人がなかなか訳せないそして書けない英文のパターンの一つとなっている。この文型は、**there** を文頭にもってきて存在やそういった事実を強調するという極めて英語的な発想を表す構文で、英語ではよく用いられるものである。

以下に、英語的発想の文と日本語的発想で書かれた文をとりあげ、それぞれの違いを把握できるよう例文をあげておく。

〔英語的発想で書かれた英文〕

1. There were a lot of people killed in the war. その戦争では多くの命が失われた。
2. There was a big dog sitting in front of the house. その家の前に一匹の大型犬がすわっていた。
3. There is a house being built in my neighborhood. 近所に一軒家が建設中である。
4. There was nobody home. 家には誰もいなかった。
5. There is more than just music involved. 単に音楽を聴くということだけじゃない。
(直訳：そこには単なる音楽以上のものが含まれている。)
6. There are only few days left till the arrival of the new year. 年明けまで残すところあと数日とせまってまいりました。
7. There are eleven people working in this section. この部署では 11 人が働いています。

〔日本語的発想で書かれた英文〕

1. A lot of people were killed in the war.
2. A big dog was sitting in front of the house.
3. A house is being built in my neighborhood.
4. Nobody was home.
5. More than just music was involved there.

6. Only few days are left until the arrival of the new year.

7. Eleven people are working in this section.

[他の文例： 英語的発想の英文 ← 日本語的発想の英文]

1. There will be a large inquiry for ○. ← We are going to have many inquiries for ○. ○に多量の引き合いがあるでしょう。

2. There are no words to express the sorrow. ← I have no words to express the sorrow. この悲しみには言葉もありません。

3. There has been a steady increase in sales of the electric shaver introduced three months ago, ← The sales of the electric shaver introduced three months ago have been steadily on the increase, 三カ月前に発売されて以来、このシェーバーの売り上げは着実に伸びており、～。

4. There is a large demand here for this item. ← We have a large demand here for this item. 当地にはこの品目に大きな需要があります。(※ 「需要」の意味では a demand となり、demands と複数形にならないことに注意。)

5. There will be many kinds of impact on the coastal environment. ← Many kinds of impact will have on the coastal environment. 沿岸環境には多種多様な影響がおよぶことになるでしょう。

5. There is a great deal I can learn from ... ← I can learn a great deal from ... ～から学ぶことはたくさんあります。(a great deal は副詞句)

6. There is still enough room for us to do ... ← We still have enough room to do ... ～する余地がまだ十分にあります。

7. There's something I'd like to discuss with you. ← I have something I'd like to discuss with you. ちょっとお話ししたいことがあります。

8. There being no objection, I will postpone the meeting. ← As there is no objection, I will postpone the meeting. 異議がなければ、会議を延期いたします。(※ これは「独立分詞構文」である。)

また、”There exist(s) ...” といったような「本来の主語が述語のうしろに来る」という文章も英語では頻繁に使われる。

There exists a region in the space around... = A region exists in the space around ...

There exists a reliable assurance as to the integrity of the information from the time when it was first generated in its final form, as a data message or otherwise; and ... データメッセージとしてであるかどうかを問わず、情報がはじめてその最終的な形で創出されたときから、当該情報の完全性に関する信頼できる保証が存在し、かつ～ (※

〔指示〕 代名詞の逆訳法： 英語ではまず具体的な名詞が現れその後は〔指示〕代名詞で受けるため、日本語では文のかかりが逆転することから、訳し方も逆転するという例。〕

〔There is/are ... の他の文例と訳出例〕

There is/are ... ～が見られる（見受けられる・そこには～がいる [ある]）。

There is ○ in ... ～には、○が内在する（～には、○が見られる）。

And there is more. しかも、それだけではありません。

There sure is. もちろんありますよ（もちろんですとも）。

There's no going back. （もう）後戻りはできない（できません）。

There is a A, a B, a C and a D. （※ be 動詞は is）

There is more to it than ... ～以上のものがある（～ということだけではありません）。

There is more to it than that. それだけではありません（これはそれだけではないのです）。

There is no way that ○ could ... ○が～することはできない相談である。

There are something like (数) ...s (数) ほどの～があります。

There is so much to be done. やるべきことがたくさんある。

There is even more to it. もっとありますよ。

There is something to be said for ...ing ～することにも一理ありますね。

There are times when (or that) SV. 時にはSVのこと（SVというとき）もある。

There is nothing like ... ～ほどよいものはない。

There are A and B. AとBの質はいろいろ（AとBはピンからキリまでである）。〔※ 無論、この訳例は文脈に応じてこう訳せる場合があるという一例である。〕

There are two of us and only one of him. こっちは2人で向こうは1人だ。

● 「be in there」:

I didn't realize he was in there. （※ there は通常副詞であるから、この文章は文法的に誤りのように見えるが、in は前置詞でその後ろは名詞であるのでこの組み合わせは問題ない。具体的に説明すると、ここでは there が in の目的語として場所を表す名詞になっているのである。）

〔there の訳例〕

There. こういう具合に。

We've all been there. 私たちはみんな同じことを経験してきた。

○ has/have been there before us. ○は、我々よりも先を行っている。

... right then and there すぐにその場で～

... out there 外界（がいかい）は～（外界では～）

以上のように、“There is/are ...”の意味が「～がある・いる・存在する」と覚えてだけで、こうした文型の英語の勉強がそれで終わるわけではないのである。

以上これにて第 78 回目終了。